

従業員に話し掛ける峯樹木園の峯隆吉社長(右)。約25%で緑化用の樹木約100種類を生産している=合志市



峯樹木園=合志市

農業法人物語

22

合志市などにある約25畝の土地でケヤキやサザンカなど緑化用の樹木約100種類を減農薬で生産し、卸業者などに販売する。約10年前からは自社栽培のクワを活用して加工食品を生産。いち早く6次産業化にも取り組んできた。創業者の峯隆吉社長(68)は「時流の先を読んで動くことが大事だ」と話す。

峯社長は菊池農高を卒業後、野菜農家の跡を継ぎ、1970年ごろから徐々に樹木生産に転換。「高度成長期を経て、生活環境に潤いを与える緑化用樹木の需要が高まる

- 【事業内容】 緑化用樹木や加工食品の生産、造園土木工事など
- 【生産規模】 約25畝でケヤキなどの樹木約100種類を生産
- 【法人設立】 1985年11月
- 【従業員】 役員含め14人
- 【売上高】 1億8000万円

樹木生産基盤に事業多角化

「と思った」と振り返る。当時は田中角栄内閣の日本列島改造論の影響もあり、県内外で公共事業向けの街路樹などを次々受注。個人用の庭木も伸び、造園や土木工事まで手掛けるようになった。

85年に社会的な信用を高めようと法人化。90年前後のバブル景気では大木が次々売れ、年間売上高が5億円近くまで増えたが、その後は公共事業の減少などに苦しんだ。

このため「将来を見据え、樹木生産を基に事業の裾野を広げた」。不要な樹木を焼いて備長炭や土壌改良用の炭を生産。副産物の木酢液は病害虫予防として散布し、減農薬栽培に使う。自社栽培のクワも活用、葉は乾燥させて飲用の茶葉に、実はジャムやジュースなどに加工する。

県産業技術センターと協力し、2013年から健康食品「サナギタケ冬虫夏草」の量産も始めた。滋養強壯の漢方薬として知られる冬虫夏草はキノコの一種で、クワ由来の飼料を与えて育てた蚕を用いて栽培する。

峯社長は海外需要の取り込みにも積極的。「樹木の輸出は5年前から年々伸び、年間2500万円前後になった。冬虫夏草もシンガポールなどに輸出したい」と話している。

定 次回 は 4月18日掲載予定 (猿渡将樹)